

もも推奨品種「なつおとめ」の特性

農業研究センター 果樹研究所 落葉果樹部
担当者：北村光康

研究のねらい

本県のももは、主体である早生種は、成熟期が梅雨期と重なり糖度が低下する等の問題が多く、現在梅雨後に収穫される高品質の中晩生種を推進しているが、7月下旬に収穫する「長沢白鳳」は着色先行型のため未熟果の混入が多く、市場評価を落としている。

このため、これに替わる優良品種を選定し、中晩生ももの品質向上を図る。

研究の成果

< 来歴 >

もも「なつおとめ」は、農林水産省果樹試験場が、母：「あかつき」×父：「よしひめ」の交雑実生により育成したもので、もも第7回系統適応性試験を経て、平成10年にもも農林23号として登録された。

- 1 樹勢、樹姿とも中程度で、新梢の発生及び花芽の着生は多く、栽培は容易である。
- 2 開花期は「あかつき」とほぼ同じで、花粉は多く、結実は良好である。
- 3 果実は扁円形で240～270gとなり、「あかつき」より大果である。
- 4 果皮の着色はぼかし状で「あかつき」に比べて多い。果面の裂果、肌荒れはみられず、玉揃いは良好で、外観は優れている。
- 5 糖度は12～13度と「あかつき」に比べて約1度高く、「長沢白鳳」並である。また、酸味は少なく、渋味もなく、食味は良好である。
- 6 成熟日数が115日前後であり、収穫期は「あかつき」より10日程度遅く、「長沢白鳳」とほぼ同じ7月中～下旬頃である。

「なつおとめ」は、果実品質が安定して優れており、本県の中晩生ももの主流品種である「川中島白桃」につなぐ品種として普及が期待される。

普及上の留意点

- 1 花芽が多く、結実良好であるので、大果生産のためには摘蕾・摘果等の結実管理を徹底する。
- 2 樹上での日持ち性は良好であるが、収穫が遅れた場合には年により果肉に褐変症が発生することがあるので、除袋や収穫を適期に行うように心掛ける。

表1 樹体生育

品種	樹姿	樹勢	花芽の 多少	花粉	生理的 落果	満開日	収穫盛期	成熟日数
なつおとめ	中	中	多	有	少	3/28	7/21	115
あかつき	中	やや強	多	有	少	3/28	7/12	106
長沢白鳳	中	中	多	有	少	4/1	7/19	109

注) 平成7～11年産の平均値(果樹研究所調査)

表2 果実特性

品種	果形	玉揃い	着色	肉質	一果重 (g)	糖度 (brix)	酸味	渋味	果肉褐変症 の発生
なつおとめ	扁円	良	やや多	やや良	241	12.6	少	無	微
あかつき	扁円	良	中	良	204	11.6	少	無	微
長沢白鳳	扁円	良	多	やや良	227	12.4	少	無	少

注) 平成7～11年産の平均値(果樹研究所調査)

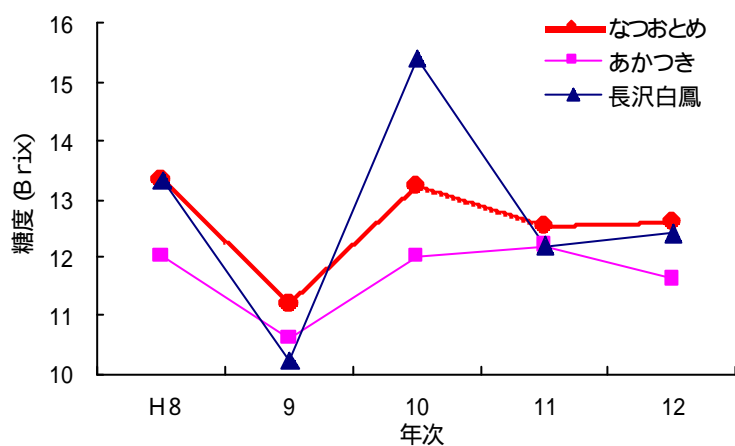


図1 品種別糖度の年次推移



写真1 「なつおとめ」の果実



写真2 「なつおとめ」の着果状況